

ARRIVE guidelines

塩見雅志

神戸大学医学研究科附属動物実験施設

学術雑誌に掲載された研究成果は同一条件で実験を繰り返した場合に再現できることが原則です。しかし、英国立 3 R 代替法センター (National Centre for the Replacement, Refinement and reduction of Animals in Research ; NC3Rs) によると、動物を用いた多数の研究論文で掲載された研究成果を再現することが困難な場合があるとし、その原因の一つとして、動物を用いた実験について記載する情報について、多くの学術雑誌が論文作成方法に明示していなかったことを指摘しています。研究の信頼性を担保するために、NC3Rs は動物を用いた研究論文を投稿する場合に論文に明記すべきポイントを整理し、Animals in Research: Reporting In Vivo Experiments (ARRIVE) GUIDELINES として公表しました。

現在、Nature や Science をはじめとする多くの学術雑誌が ARRIVE GUIDELINES を 推奨し始めています。中には、実験計画の段階から考慮しておかなければ対応できない項目も含まれています。実験動物関係者として再現性を担保した信頼できる研究成果を公表できるよう、また、自らが論文を投稿する採に途惑うことがないよう ARRIVE GUIDELINES について考えてみたいと思います。